



# 平成二十七年年度 定期総会開催

## 二松學舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成27年7月31日発行  
(第89号)

二松學舎大学父母会  
(本部・事務局)  
東京都千代田区三番町6番地16  
二松學舎大学学生支援課

題字は  
故 観山貞廣常吉先生書

平成二十七年五月二十三日(土)  
午後一時三十分、九段一号館中洲記念講堂において、平成二十七年年度二松學舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、文学部・山崎正伸教授による『平安時代は、一夫多妻制ではありません。一夫一妻制です。』と題した講演会が行われた。

午後二時三十分、田沼好志枝氏の司会により総会が開会され、木村一成父母会長、高野和基副学長がそれぞれ挨拶をした後、渡邊勝文議長により議事に入った。

第I号議案の平成二十六年年度事業報告並びに決算については、審議の結果、原案どおり承認された。

第II号議案の平成二十七年年度役員選出は、会長に田中福男氏、続いて会計監査に小沢規久子氏と田沼好志枝氏が決定した。

第III号議案の平成二十七年年度事業計画並びに予算が審議され、それぞれ原案どおり承認された。

議事終了後、平成二十六年で役員を退任した木村一成氏、小林良記氏、田中貴子氏、野口悦子氏の四名に高野副学長から感謝状と記念品が贈呈され、総会は終了した。

午後三時五十分から、会場を九段一号館十三階のラウンジに移し、教職員と父母との懇親会が開催された。



# 父母会活動 —大学と子ども達のために—



## 父母会会長 田中福男

平成二十七年度がスタートして早くも四ヶ月が過ぎようとしています。新入生は、文学部四八一名、国際政治経済学部二一六名、編入学生は、文学部三名、国際政治経済学部一名合計七〇一名を迎えることが、出来ましたことは、誠に喜ばしいことです。

平成二十七年度から新しい就職・採用活動開始時期の変更により子どもたちの戸惑いもあると思います。

一昨年よりは昨年。昨年よりは今年と就職事情は改善しています。企業の求人も上昇しています。

企業が求める人材は、①コミュニケーション能力がある。②協調性がある。③頑張る事できる。人材だと思っています。

子供達には、四年間の学生生活を過ごした後の自分を常に想像して学生生活を通じて欲しいと思います。言葉にする「未来予想」になります。

目標を待ち、自分自身を常にチャレンジャーとして過ごす日々は、きっと楽しく、また、生き甲斐あるものとなると思います。良く遊び、良く学びの精神で学生生活

活を過ごして欲しいと私自身思っています。その事が社会に必要とされる人、社会に貢献できる人と成れると考えます。

二松學舎大学の父母会は、地区別懇談会の開催(平成二十七年度は、十地区での開催)、課外活動に対する助成、大学行事への助成、成長支援型奨学金制度の実施、外国人留学生支援に関する助成、営繕助成、就職指導支援費の助成などを実施させて頂いております。

また、二松學舎の父母会伝統となっております。卒業記念パーティーの実施と卒業記念品(卒業アルバムを卒業生全員に配布)の贈呈、父母会報の発行(年四回発行)と創縁祭参加などを実施させて頂いております。

過日の平成二十七年度父母会定期総会におきまして、ご承認を頂き平成二十七年度二松學舎大学父母会予算でスタートをさせて頂くことになりました。

大学側の体制も平成二十七年度から変わり渡辺学長から菅原学長体制がスタートとなります。

二松學舎大学の父母会も発足して今年で二十二年度には入りました。

二松學舎大学の父母会は、【子供達の為に】良き事は取り入れ、改善が必要であれば改善して参ります。

この事が、これまでの諸先輩の方々が大切にされて来られた二松學舎大学父母会の【理念】と心得と思えます。

【子供達の為に】常に進化し続ける二松學舎大学の父母会であり、大学とのパイプ役として活動して参ります。

役員一同一生懸命活動して参りますので、皆様からのご支援とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

## 新役員紹介 —役員に就任して

鈴木千晶

本年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。

五月父母会総会に参加して、ご参加の皆様、学生への愛情と熱意、また、学生支援の大きさ・手厚さを感じました。

父母会総会の話息子にしたところ、違う角度からみた二松學舎大学について、親子で話すことができました。

皆様との出会いとご縁を、今から大切にしたいと思えます。

どうぞ宜しくお願い致します。

宮脇正裕

今年度、縁あって父母会役員を務めさせて頂くことになりました。

伝承文学を都内の大学で学びたいという娘の希望が叶い、四月から本校にお世話になっております。

毎日楽しく大学に通う娘を見て社会人になる為の最後の学び舎でいろんな事を少しでも多く身に付けてもらいたいと思っております。

父母会役員として、学生の方々の為になる環境作りにも少しでも役立てばと思ひながら尽力したいと思います。宜しくお願い致します。

安達香里

はじめまして。本年度、父母会の役員を務めさせて頂くことになりました。入学式から早四ヶ月が過ぎまし

た。息子は新しい生活にも慣れ、日々の授業や部活動に、意欲的に取り組んでおり、ホッとしているところ です。

父母会を通して、学生の皆さんの希望に満ちた四年間を、皆さまと活動並びに交流を深めながら、温かく見守っていきたいと思っております。微力ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

白根真弓

「はじめまして。」父母会の役員を務めさせて頂くことになりました白根と申します。何事にも一歩を踏み出す好きな言葉の一つです。息子から「社会の教員になりたい。」と進学希望があり、高校の先生方に相談をしていて二松學舎を教えて頂き入学させて頂きました。家族間でもびっくりしましたが、考え方もすっかりしており中学から始めた柔道部に入学して学生生活を充実している姿も見られます。

大学で父母会がある事は知りませんでした。先生方をはじめ先輩役員の方々の優しさに触れさせて頂き、共に活動をして行きたいと思えました。

「気は優しく力持ち」になれる様に微力ではありますが、よりよい環境の中で学生生活を送れるように先輩方に教えを頂きながら活動の役に立てばと思えます。四年後以降も経験活かせるようにどうぞよろしくお願ひいたします。

## ごあいさつ

主体的な学びと  
学習環境の整備

学 長 菅原淳子



新年度も4カ月が過ぎ、新入生の皆さんは大学生活に慣れてきた頃かと思えます。2年生は両学部共に4月から自らの専攻を選んで学び始めていますし、3年生はさらに専門的な学びを深めています。一方4年生は就職活動、教職を目指す学生は教育実習と、忙しい時期を迎えています。九段キャンパス周辺の道は学生であふれ、活気に満ちています。

さて、大学は高校まで以上に主体的に学ぶことが求められる場所です。知識は与えられるのではなく、自らが学んで身につけるものです。本学では、学生の主体的な学びを支援するために、今年1月から2号館を改修し、図書館と直結する形でラーニング・コモンズを設置いたしました。ラーニング・コモンズとは学生の学習支援を目的とした施設で、ICT環境が整備され、自習やグループ学習用の設備が用意された空間です。ゼミでのディスカッションに使用したり、語学を中心に学習ソフトを利用することで学生が自分の力に合わせて自習することも可能になっています。2号館のラーニング・コモンズだけでなく、新たに竣工した4号館にもグループ学習の場として活用できるラーニング・ス

クエアを設けました。学生の皆さんがこうした施設を有効に使って、主体的にそして快適に学んでくれることを期待しています。大学としては、教育・学習環境のさらなる充実と努めたいと思っています。



## 「アクションプラン26」

理事長 水戸英則



「N2020PLAN」の実行計画である「アクションプラン」の実行状況については、本年度から、「アクションプラン年次報告書」に取り纏め、大学ホームページに公表する扱いとしました。

26年度アクションプランの大学関連実施事項は、大学4号館の建設や1・2・3各号館の改造・改修等のキャンパス整備計画や、大学教育の質的転換策、例えば、アクティブラーニングの導入や、前年度導入のライブキャンパスシステムの学生ポータルフォリオを利用した学習・指導履歴の可視化、実践的な英語プログラムの導入、就職支援を目的としたキャリア教育を、正課科目として

開講することなどが着実に進められました。

これらの対応により、平成25年度に引き続き、平成26年度も文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業、タイプ1「教育の質転換型」」に採択され、経常費補助金の加算措置や、同制度に採択された大学のみが申請できる「教育活性化設備整備事業」等の補助金を活用して、次世代型の自習施設である「ラーニング・コモンズ」を九段2号館に、無線ラウンを九段キャンパス全体に整備し、学習環境の更なる充実を図りました。一方、進捗が遅れている課題については、本年度から重点課題を抽出し、毎月開催する「アクションプ

ラン推進管理委員会」において、各課題への取組計画について担当部局から説明・報告を受けることを徹底し、未進捗課題の改善を加速化させております。

長期ビジョンの取纏めから始まった本学の一連の学校改革の動きは、事務組織においては浸透・理解され、教員組織においても、その浸透度を増しています。今後も、役員・教職員が一丸となって「アクションプラン」に掲げる課題を着実に達成して行くことが、「N2020PLAN」に掲げた二松學舎大学の将来像実現の鍵となるものと確信しております。

## 平成27年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録

日時：平成27年5月23日(土) 13:30~17:30

場所：九段校舎1号館 中洲記念講堂

講演：「平安時代は、一夫多妻制ではありません。

一夫一妻制です。」

二松学舎大学文学部教授 山崎 正伸 先生

出席者：本年度会員数 2,826名

委任状 931名

出席者 87名 合計 1,018名

大学側：高野副学長、森野学務局長、

西園教学事務部長、小西学生支援課長、

竹内学生支援課員

### 1. 開会の辞 司会 田沼 好志枝

司会者から「本日総会時の会員数は、2,826名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて565名の出席が必要です。

本日の出席者は 87名。委任状は 931名。

合計 1,018名です。

よって本日の総会は成立します。」との説明があった。

続いて、木村一成父母会長、高野和基副学長からそれぞれ挨拶があった。

### 2. 議長指名

司会者から「総会の議長は父母会運営細則により会長又は会長の指名する者となっており、会長から渡邊勝文さんが指名されているので、渡邊議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、渡邊氏が席についた。

### 3. 書記・議事録署名人指名

渡邊議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書記 倉持政江氏

議事録署名人 南條麻里氏、結城文子氏

### 4. 議 事

#### ◇第Ⅰ号議案〈平成26年度事業報告並びに決算〉

木村会長から、議案書に基づき概要説明があり、続いて野口会計監査から監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

#### ◇第Ⅱ号議案〈平成27年度役員選出〉

渡邊議長から、会則第6条・9条及び運営細則第3条に基づき、会長及び会計監査員の選出については、役員会及び大学の協議により選出し総会に推薦することとされている旨説明があり、大学側から協議の結果について発表願いたいとの説明があった。続いて大学側(森野学務局長)から、協議の結果、次の各氏が選出されたので推薦したいとの発表があった。

会 長 田中福男氏

会計監査 小沢規久子氏、田沼好志枝氏

渡邊議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。

続いて田中新会長より就任の挨拶があった。

#### ◇第Ⅲ号議案〈平成27年度事業計画並びに予算〉

田中新会長から、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、審議の過程で次の質問・意見等があり、役員会で検討を行うこととした。

#### 〈質問・意見等〉

・予算案で「課外活動活性化助成費」が減額されているが、学生を支援する意味でも減額しないで欲しい。(文学部3年次)

→ 田中新会長から、今年度の状況を鑑み次年度予算では前年度並みに戻すことを検討したい。また、本年度中も学生の活動状況によって必要と判断した場合は、予算を超えて支出したいと回答した。

・就職支援項目が「事業費」と「特別事業費」にわかれているが、これはどのような意味があるのか。(国際政経3年次)

→ 田中新会長から、「事業費」に計上されている項目は、各種資格試験の検定料等学生に対する直接的支援で支出されるものを計上している。「特別事業費」に計上されている項目は、キャリアカウンセラー配置に伴う人件費を計上していると回答した。

・地区別父母懇談会<東京会場>は、本年度から東京都と神奈川県、埼玉県と千葉県と分けて隔年で案内状を送付するとの説明があったが、埼玉県在住の父母は本年度東京会場に参加することは出来ないのか。(文学部3年次・政経3年次)

→ 田中新会長から、本年度は東京都と神奈川県を対象とする。埼玉県と千葉県は次年度対象とする。東京会場以外の会場には参加可能であるため、群馬県等近隣で開催される地区別父母懇談会に出席願いたいと回答した。

・次年度以降、卒業パーティーの開催地を、帝国ホテルから別の会場に変更することを視野に入れて検討したいとの説明があったが、今後も帝国ホテルでの開催願いたい。(政経4年次)

→ 田中新会長から、役員会で十分に検討したいと回答した。

議事終了後、下記の退任役員へ高野副学長より感謝状と記念品が贈呈された。

木村一成氏、小林良記氏、田中貴子氏、野口悦子氏

### 5. 閉会の辞 司会 田沼 好志枝

#### ◇懇親会

定期総会終了後、九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。

17時30分、盛会のうちに終了した。

平成27年5月23日

議 長	渡邊 勝文	Ⓓ
議事録署名人	南條 麻里	Ⓓ
議事録署名人	結城 文子	Ⓓ
書 記	倉持 政江	Ⓓ

# 平成27年度 総会余滴

総会出席ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見を掲載します。紙面の都合によりすべてを掲載することは出来ませんがご了承ください。

◎父母会運営、誠にありがとうございます。  
(神奈川県 国際政治経済学部3年)

◎役員の皆様方、いつも感謝申し上げます。  
(千葉県 文学部4年)

◎役員の方々、お忙しい中、ありがとうございます。  
(静岡県 文学部3年)

◎お手数ですが、早目の連絡をお願いします。  
(神奈川県 国際政治経済学部2年)

## 《父母会事務局より》

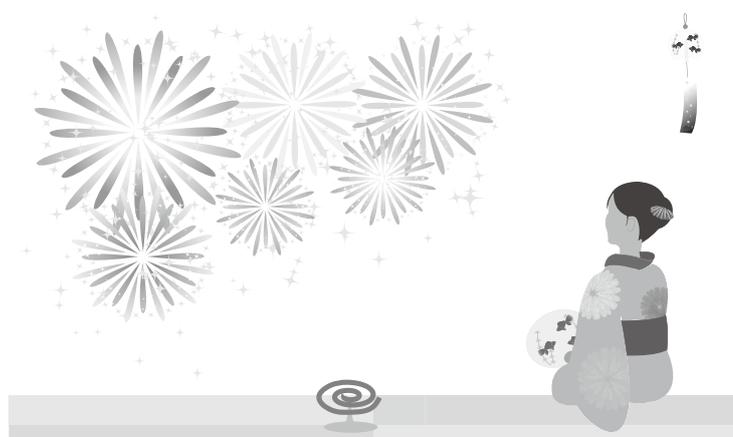
来年度の父母会定期総会は平成二十八日(土)を予定しております。

三月三十一日発行の父母会報に

は、次年度の年間予定と地区別父母懇談会の開催地と開催日時の掲載を予定しておりますので、ご確認頂き、ご予定を立てていただければと思います。

毎年、貴重なご意見、ご要望をお寄せ頂きありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

尚、紙面に掲載できないご意見、ご要望につきましては、大学より個々に対応させていただいております。



## 平成27年度役員

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
田中 福男	会長	4年	酒井 継美	委員 (広報)	2年
渡邊 勝文	副会長	3年	結城 文子	委員 (広報)	2年
森野 崇	副会長 (学務局長)		南條 麻里	委員 (広報・会計)	2年
小沢 規久子	委員 (会計監査)	4年	久田 恵美	委員 (広報)	2年
倉持 政江	委員	4年	鈴木 千晶	委員	1年
吉田 広美	委員	4年	宮脇 正裕	委員	1年
田沼 好志枝	委員 (企画・会計監査)	3年	安達 香里	委員	1年
三原 由美子	委員 (企画)	3年	白根 真弓	委員	1年
田中 幸子	委員 (企画)	3年			





# 大学に入学して

桜花爛漫の四月の入学式からはや四ヶ月。六九七名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに出会った、様々な経験を得た学友が二松學舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新生に書いてもらいました。



大学に入学して、早四ヶ月。日本の首都、東京にある二松學舎大学に私は四国の香川県から入学した。この大学に進学しようと決めたのは、高校三年の夏。私は英語と国際関係の事が学びたかったが、大学の知識がない。私はどこに進学したら良いかわからなかった。迷っている中、所属していたサッカー部の恩師に相談したところ、二松學舎の卒業生であるという事から、推薦の話を頂いた。私は頂いた話を無駄にしたいくないし、東京という違う環境で成長したいと思ひ、話を進めていた。しかし、両親の猛反発を受け、親との関係が悪いまま、夏休みが終わった。しかし恩師や周りの人のおかげで何とか説得することができ、無事に受験することが出来た。絶対に合格したかったので小論文の練習も一生懸命した。面接の練習も何回もしてもらった。その成果もあって私は二松學舎に合格することが出来た。それからというものの私の生活は大きく変わった。合格したからと、もともと出来なかった勉強もおろそかになつてし



国際政治経済学科

久米謙吾

まい親ともあまり話さなくなった。受験が終わってからの生活がダメだと気付いたのは私が東京に行く2ヶ月前だった。このままではダメだと思ひ何がいけなかったのか考えた。大学に行けるのは私を選んでくれた恩師のおかげ。高額なお金を払うため一生懸命働いてくれた両親のおかげ。今まで支えてくれた全ての人々のおかげだ。私は一番大事な事を忘れていたのだ。「感謝」という気持ちを忘れていたのだ。もう大学に行くため香川にいる時間も少ない。東京に行くまでの時間、感謝の気持ちを忘れずに行動するようになった。今はもう七月。親元を離れた私はより一層感謝の気持ちが強まった。一人暮らしを経験して家事の大変さがわかった。

今こうして普通に生活が出来ているのは、両親や今まで出会った全ての人々のおかげだ。親元を離れている人もそうでない人も、「感謝」の気持ちを忘れてはいけない。感謝の気持ちを忘れず大学生活を送ってほしい。



## 国文学科

黒川 璃乃

私が二松學舎大学に進学することを決めたのは、高校二年生の秋だ。それまでは、自分は一体何をしたいのか、どこに進めばいいか、まったく見当がついていなかった。そのようなとき、二松學舎大学のパンフレットを偶然目にし、国文学科専攻科目の『映像・演劇・メディア』、特に『演劇』の項目に目を引かれ、興味を持ったのがこの大学を志すことを決めた第一の理由だ。そして高校二、三年当時のクラス担任の先生が、二松學舎大学の卒業生ということで、親身に大学の特色や魅力などを教えてくださったことも進学決定に大きな影響を与えた。

そして自分の志望通り、無事二松學舎大学に入学して早くも四ヶ月が経ち、この新しい生活にも、未だに高校生気分が抜けないながらも、次第に慣れ始めてきている。良い友人や先輩、先生方に恵まれたことが、早々に新たな生活に慣れることの手助けになったのだろう。二松學舎大学の温かな雰囲気も自分の性格に適合して、とても過ごしやすい。大

学の立地も、この過ごしやすさに一役買っていると思う。近くに靖国神社、皇居、千鳥ヶ淵公園、神保町の古書街があるのは大きな魅力だ。講義が終わった後、大学周辺を散策することが私の楽しみの一つになっている。この勉学へ励むためのモチベーションアップに大きく貢献している。

しかし、今、学問にすっかり励んでいるのかと問われると、頷きかねるのが現状だ。希望していた大学に無事進学できたうれしさにより、若干浮かれ気味になってしまっているのだろう。無意識に、「大学入学」をゴール地点にしてしまっていたのだ。実際には「大学入学」はゴールではなく、スタート地点なのだ。高校生活を終え、再び新たなスタート地点に立ったことを深く自覚しなければならぬ。

この先の四年間をしっかりと見据え、この良い環境を生かしつつ、悔いのないよう精一杯駆け抜けることが、私のとりあえずの目標だ。



## 中国文学科

佐藤 里奈

私が二松學舎大学を知ったのは高校三年生の六月頃でした。それまではただ単に高校の担任の先生や進路の先生に勧められた大学の合格を目標として勉学に励めばそれで満足、という軽い気持ちでいました。けれども各大学のパンフレットを請求しているうちに二松學舎大学と出会い、そしてオープンキャンパスに参加させて頂いた時、この大学はとても落ち着いている雰囲気だと感じたと同時に、この場所なら自分の好きな書道が存分に出来るだけではなく、様々な語学を学ぶ事が出来ると思えました。

二松學舎大学に入学して早四ヶ月が経過しました。九十分という授業時間が最初は集中力が続くのだろうかと怖気づいていましたが、いざ受けてみると個性溢れる素晴らしい教授の話に引き込まれている自分がい

ました。勉強面では、入学以前書道を専門的に学びそれを活かした職業に就きたいと考えていましたが、入学後この大学でもっと違う可能性を広げ、様々な語学力を身に付けた

いと思ったので、キャリアセンターの先生に相談しに行こうと足を運び、そこでキャリアセンターの先生が親身に話を聞いて下さり、今では語学の勉強に日々追われています。そして生活面では、気の合う友人達と空きコマの時間を活用して、自らの将来を見据えた話をしたりしています。このような事からまだ未熟な私ですが、一步大人に近付けたようにも感じられ、充実した生活を送っています。

私は大学四年間で様々な資格を取得する事に挑戦していきたくと思っています。四年という時間をただ漠然と過ごすのではなく、中身の濃い時間にしていきたいです。卒業時に二松學舎大学に入学して良かったと思えるような四年間を、大切に過ごしていきたいです。





文学部 教授

### 五井 信

一九八一年四月に二松學舎大学文学部国文学科に入学した。浪人生活三年間を経ての大学入学である。成績優秀な学生になれるとは最初から考えたこともなかった(学部時代の成績表を入手して愕然としたことがある……笑)。その代わり、同学年の誰よりも本を読む学生になろうと決めていた。用事のない平日は、ア



国際政治経済学部 専任講師

### 咲川可央子

大学時代の学部3年次は、私にとって重要な「ターニング・ポイント」であった。研究の道に進み、今日大学教員として二松學舎大学国際政治経済学部勤務する自分があるのも、この頃の経験があったからこそと思う。

大学入学後、体育会系のサークルに所属し、週5日の早朝練習の後に

パートの部屋で夕食後のほとんどをベッドの上で本を読んで過ごした。とりあえずの目標が年間一〇〇冊だったと記憶する。そして週末は、当時でもすでに「時代遅れ」になっていたデモや集会に参加した。

二松學舎の教授陣では、神戸仁彦先生、中村宏先生のお二人にお世話になった。フランス語で習った神戸先生は、当時流行し出していた現代思想に関する導き手だった(フランス語はこれっぽっちも身につかなかった)。

柄谷行人、蓮實重彦、R・バルト、M・フーコー……など、いまでも読み返す思想家たちの本を頭を抱えながら読みあさった。浅薄な考えをもとに、酒の席で先生に突っかったことも何度かあった。「生意気な学生」好きは、ひよつとすると神戸先生に做った結果なのかも知れない。

## 私の学生時代

中村先生はゼミでの指導教員だった。ゼミ選択のガイダンスで、野間宏か大江健三郎で卒論を書きたいと口にしたところ「じゃあ僕のゼミしかないね」といつて引き受けた。

野間宏か大江健三郎で卒論を書きたいと口にしたところ「じゃあ僕のゼミしかないね」といつて引き受けた。野間宏か大江健三郎で卒論を書きたいと口にしたところ「じゃあ僕のゼミしかないね」といつて引き受けた。

**【現四年次生の就職状況】**

平成二十八年三月卒業予定者（現四年次生）の、就職活動の現状につきましてご案内いたします。今年度から、大学生の就職活動は、日本経済団体連合会（経団連）による「採用選考に関する指針（以下指針）」に基づき、広報活動、採用選考活動等すべて後ろ倒しとなったことは、

この紙面において何度かご案内してきましたところです。具体的には書類選考、筆記試験、面接試験等の採用選考活動は、八月一日から解禁となっています。しかしながら現実的には、年度当初から様々な形での選考がなされてきており、本学でも既に内々定を得た、という学生も徐々にではあります。またその一方でまだ活動を続けている学生も多くありますが、キャリアセンターでは、相談や求人企業の紹介等、随時行なっておりますので、ご利用くださいませう、ご家庭でもお声掛けいただければ幸いです。

**【おわハラについて】**

さて、ここで今年の就職活動において例年にはあまり見かけなかった事についてご案内いたします。企業が、内々定をだした学生に対し、就

職活動を終了するよう強く迫る等といった行為、即ち「おわハラ」ということが問題となっていることは、報道等を通じてご存知のことと存じます。今のところ、本学ではそのような事例は報告されていませんが、

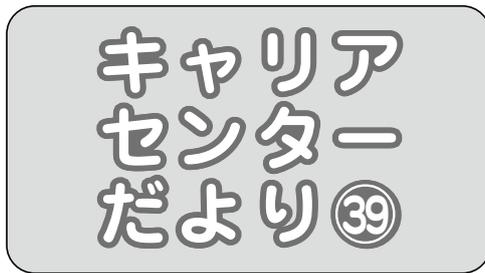
そのような事態に備えて、「おわハラ対策セミナー」を開催し、注意喚起をいたしました。またこのようなことで、困っているようなことが

ありましたらキャリアセンターまで相談にいくよう、お伝えくださいませう、よろしくお願いいたします。センター一同、ご支援いたします。

ここで、夏期休業中のキャリアセンターによる各種の支援行事についてご案内いたします。学内でも既に周知しているところですが、多くの学生に参加していただきたく存じますので、ご家庭でもよろしくお伝えください。

**三次生対象 キャリアゼミサマリー**  
(八月四日)  
春semester中に、水曜日の五時限目にキャリアゼミ（就職対策講座）を開講してきましたが、授業等の都合により参加できなかった学生

**【今後の予定】**



を対象に、春semester中に実施してきた内容のまとめ講座を開講します。また秋semesterからは、より実践的な内容の講座を開講します。秋からは参加できる、という学生もこのまとめ講座にご参加いただけると、より効果的です。よろしくお願いたします。

**全学年対象 MOS対策講座(有料)**  
(八月十七日～十九日 ワード)

**日 エクセル)**  
(八月二十四日～二十六日)

PCのスキルアップを目指して開講します。今回の開講については、既に締め切りとなつてしまいましたが、春休業期間にも開催します。今、今回受けられなかった学生はそちらをご利用ください。

**全学年対象 サービス紹介**  
(九月三日、四日) (有料)

介護業界のみならず、運輸、ホテル等多くの業界で需要が高まっているサービス紹介士を取得する講座です。今回は既に締め切りとさせていただきます。今回受けられなかった学生は、次の機会をご利用ください。

**全学年対象 秘書検定2級取得講座**

様々なビジネスの現場で求められるビジネスマナーやスケジュール管理、秘書検定2級を目指して学んでいただきます。

**【まとめにかえて】**  
冒頭に申し上げましたように、今年度からの新しいルールによる就職活動は、既に進行しているところですが、八月から動き始める企業もあり、今年度の就職活動はまだまだ続いていくと見込まれています。まだ八月以降の選考によっては、既に内々定を出している企業でも内定辞退者が出ることを見越して、十月以降も採用活動を続けるとしている企業も少なからずあり、本学にも、毎日のように、多くの企業から求人を受付けております。従いまして、まだ活動中の学生、あるいは様々な事情によりこれから就職活動を始める学生にとつても、応募する機会はまだある、ということ。キャリアセンターでは引き続き、学生の就職支援に取り組んでまいりますので、是非とも利用するようご子息にお声掛けくださいますようよろしくお願いいたします。

さて、ここで今年の就職活動において例年にはあまり見かけなかった事についてご案内いたします。企業が、内々定をだした学生に対し、就

	新	
入	生	
迎	式	
典		

平成二十七年学生会執行委員会会長を務めております、清水常一郎です。新入生の皆さんご入学おめでとうございます。新入生の皆さんはもう大学生活には慣れましたか。高校を卒業して大学入学にあたり上京して一人暮らしをする方もいると思います。今までと違う環境で大変な事も多いとは思いますががんばってください。さて、四月十二日に開催された新入生歓迎式典。新入生歓迎式典は新入生と在校生の交流を深め、そして更に、新入生に部活やサークル等の周知を図るために開催致しました。今年度の新入生歓迎式典は「花篝」という言葉をテーマに進めていきました。コンセプトは、新入



生に風情や賑わいのある学生生活を過ごしてほしい。また、そのために各団体と役員が団結し、素敵な行事を作りたい、というものでした。この言葉通りに新入生歓迎式典が皆さんにとつて賑わいのある式典になれば幸いです。今年の新入生は積極的で明るい人たちが多く、主催側である私たち学生会執行委員会も非常に楽しむ事ができました。またこの新入生歓迎式典が無事に成功したのは父母会の皆さん学生支援課のみならず、はじめ、各部活・サークルの皆さんの仲間のおかげだと思えます。心より感謝申し上げます。そして新入生の皆さん、二松學舎大学へようこそ。これからよろしくお願ひします。



学生相談室では、毎年春、一年生の基礎ゼミの授業（希望してくださった先生のクラス）に出張して心理教育の授業を行っていきます。心理テストを行ったり、リラクゼーションを取り入れたり、学生時代に出合う様々な心理的課題についてレクチャーしたりなど、いくつかのプログラムを組み合わせていきます。

先日はあるクラスで“他己紹介”を行いました。まずペアを作ってお互いに自己紹介をし、その後みんなの前でその相手のことを紹介するというものです。短い時間の中で、学生さんたちは驚くほど上手にユーモアのあるお話をしてくれました。大人しいけれどこんな意外な一面もあるんですとか、一見派手だけど優しい人ですとか、とてもかわいらしい人ですとか、そんな思いやりのあるプレゼンをしてくれた人もいました。高校の部活で主将を務めていたとか、ある競技の有段者であるとか、意外な特技を持っていることなどを明らかにしてくれた人もいました。

**学 生 相 談 室**

**だ よ り 89**

カウンセラー **森岡 さやか**

普通に自己紹介をする場では、こういった長所はなかなか出せないものですが、きっとペアでお話ししたとき、互いに質問をして引き出してくれたのでしょうか。人の良いところを披露しあうお話はとても楽しかったです。

一方、自分で自分の良さをこんなに活き活きと語ることは難しいだろうと思うと切なくもあります。小さな頃はともかく、大きくなれば私たちはとかく反省の弁を述べることはあっても、自慢をすることに控えめになります。さらには意識さえも、自分の欠点や改善すべき点の方に偏ってしまふ気がします。それはあまり健やかなことではありません。

うまくできたら褒めて、成長を見つけたら大喜びして、頑張ったら労って、何かしてくれたら感謝して：そんな小さなお子さん相手なら自然にできた言葉かけを今一度思い出して、お互いにポジティブな側面への注目を増やしていけたらいいと思います。

# 九段祭POP & 柏祭GUTS 開催

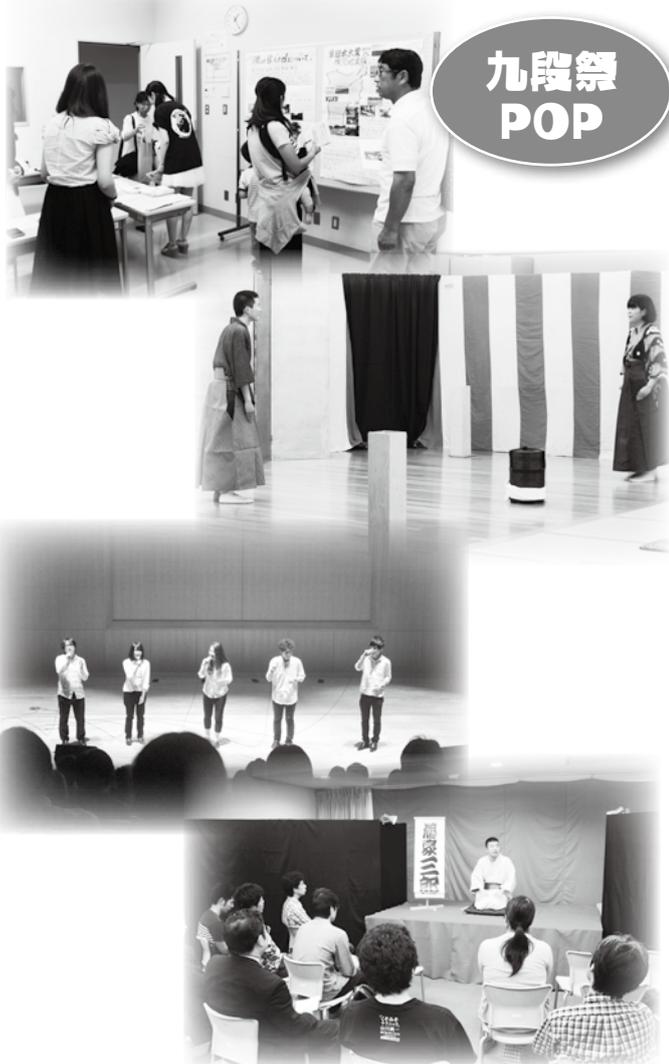
学生会執行委員会主催の行事として、6月21日(日)に九段祭POP2015、6月28日(日)に柏祭GUTS2015を開催致しました。多くの団体、チームの方に参加していただくことができました。

九段祭POP2015は文化系団体の発表の場として、「カラフルライト」というテーマを掲げ、開催致しました。ライトの意味にもあるように、参加団体の多彩な発表内容や来場者の方々の笑顔が九段キャンパスを活気づかせてくれました。演劇や展示、冊子配布など、老若男女が楽しめる行事となりました。学生会執行委員会が主催となり、例年開催しているビンゴ大会や、学生ラウンジでは新聞やあいうえお作文を取り上げた企画も開催致しました。参加団体の皆様のご協力により、来場者に楽しんでいただけたと思います。

柏祭GUTS2015は、柏キャンパスで行う球技祭です。今年「臨場」というテーマのもと、バスケットボール、バレーボール、そして昨年は悪天候により中止になってしまったソフトボールの3競技を開催致しました。普段はあまりやらない、球技を行える機会として、参加して下さった選手の方々、応援や見学にいらっしやった皆様にも喜んでいただくことができました。

九段祭POP2015及び柏祭GUTS2015は参加団体や来場者の皆様、ご協力くださった関係者の皆様のおかげで成功することができました。この場をお借りし、御礼申し上げます。また、今年お越し頂けなかった方も、来年は是非ご参加ください！

国文学科二年 平山 真実  
中国文学科二年 鈴木 啓介



九段祭 POP



柏祭GUTS



# 森野ゼミナール

森野ゼミナールでは、日々私たちが何気なく使用している日本語について研究をしています。

三年次には、日本語について、気になったことを各自研究し、その結果を発表。更に、ゼミ生や、先生が気になったことを質問し、その点を踏まえ、更に深く研究を進めていきます。研究の内容は幅広く、源氏物語のような古文から、現代のサブカルチャーに至るまで様々な日本語を

研究しています。

四年次には、卒業論文に向けて、研究を進めていきます。ゼミの時間には、進捗状況を報告し、三年次と同じように、ゼミ生と先生が気になった点、改善すべき点を挙げ、それを糧に更に研究を進めていきます。

これらの活動以外にも、夏には二泊三日、春には一泊二日で行われる合宿を毎年行っています。夏合宿の際には、三年生と四年生の両方が集まり、それぞれの発表を聞き、皆で疑問点等を出し合います。春合

宿は、三年生のみで行います。この合宿では、いつもとは打って変わって、先生とゼミ生五〜六人で、卒業論文をどんなテーマで、どのように研究を進めていくのか、という話を話し合います。これにより、春休み中でも、自分がどのように研究を進めていけばいいのか、という道筋が立てられます。

自分の興味を持っている日本語のことについて深く研究することが出来るので、とても楽しく、やりがいのあるゼミです。

国文学科四年 岸 亮一



# 手賀ゼミナール

手賀ゼミナールの専門分野は、国際政治学です。

二十二人のゼミ生が、手賀先生の指導の下に国際政治学について学び、考えていきます。しかし、一言で国際政治学について学んでいると言っても、具体的に何をしているのか、想像できる人はあまり多くないかもしれません。

例えば、世界中から戦争を無くしたいと思った時、全世界の国々、人々が武力を放棄したら、戦争の無い

平和な世界になり得るのでしょうか？結論から言うと、答えは×です。

では、それはなぜか？一見すると、○が正解だと思われるかもしれませんが、そう簡単には行かないのが世の常。手賀ゼミナールでは、そのような問題について、国際政治学の理論をもとに考察していきます。

勉学に限らず、全ての物事において、基礎をしっかりと身に付けていなければ、応用など不可能です。そこで、三年次の春セメスターでは、執筆された年代、そして主張の異なる三冊の文献を輪

読し、毎週、発表担当者が指定箇所のレジュメ発表、また内容に関する問いを設定し、その問いについて議論することで、国際政治学とはどのような学問なのか、その基礎を身に付けます。そして、最終的には卒業論文の完成を目指し、多くの知識を吸収すべく日々学んでいます。また、手賀先生のわかりやすくて的確な解説は、難しい理論であっても自分なりに解釈することを助けてくれ、より知識を深めることにつながります。

人数の多いゼミナールですが、ゼミ生同士の仲は良く、ゼミ飲み会も定期的



開催されています。気の合う仲間達と共に学ぶ。これが、手賀ゼミナールの醍醐味です。

国際政治経済学部三年  
長谷川 嶺志



## 平成26年度決算の概要

二松学舎創立135周年(平成24年10月)を機に策定した長期ビジョン「N'2020 Plan」及びその実行計画「アクションプラン」の各課題について、施設設備整備をはじめ大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を実行している。平成26年度においては、附属高校野球部の全国大会(甲子園)出場が実現したほか、柏高校は定員の臨時増により入学者が大幅に増加した。また、大学の九段集約に伴い施設の拡充をはかるため昨年度より建築中の大学九段新校舎(4号館)が完成したほか、既存校舎(九段1～3号館)の改修及びラーニングコモンズ設置、柏4号館及び7号館の改修整備、その他各種事業を実施した。

当年度、入学者の募集定員充足率は、大学/学部119%、附属高校105%、柏高校138%、柏中学校60%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部119%、附属高校99%、柏高校120%、柏中学校54%であり、大学院、附属高校および柏中学校で入学定員、収容定員ともに未充足となった。

大学では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災学生に対し、授業料等の減免措置を当年度も引き続き実施し、全学的に教育研究振興資金募金として被災学生支援のための募金活動を行った。

### 平成26年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す消費収支計算書、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す資金収支計算書および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す貸借対照表から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

#### 1. 消費収支計算書について(別表1)

消費収支計算では、帰属収入合計が55億7千3百万円、基本金組入額は11億3千9百万円(このうち九段新校舎3億5千4百万円、既存校舎改修整備3億7千1百万円)、消費収入合計は44億3千3百万円、消費支出合計は50億3千1百万円となり、消費収支差額は5億9千8百万円の消費支出超過となった。

消費収入では、入学者数が大学院16名・学部713名・附属高校262名・柏高校344名・柏中学校61名、合計1,396名で前年度比59名増加、在籍者数は大学院44名・学部2,860名・附属高校739名・柏高校899名・柏中学校166名、合計4,708名で前年度比62名増加し、学生生徒等納付金は38億8千5百万円(前年度比6千3百万円増加)となった。補助金は9億3千1百万円(このうち経常費補助金は国庫補助金2億4千3百万円、東京都補助金2億3千8百万円、千葉県補助金3億3千5百万円)、資産運用収入・売却差額は3億5千2百万円、事業収入が3百万円、雑収入は1億4千3百万円(このうち退職金団体交付金は1億1百万円)となった。消費支出では、人件費が27億6千5百万円(退職給与引当金繰入額の減少等により前年度比1億5千4百万円減少)、教育研究経費は17億9千3百万円(大学新校舎の維持管理費及び附属高野球部の甲子園出場経費の増加等により、前年度比2億3千2百万円増加)、管理経費は4億2千8百万円(前年度比3千9百万円増加)であり、消費収支差額は5億9千8百万円の支出超過、帰属収支差額は5億4千1百万円の収入超過(前年度比5千4百万円減少)となった。

#### 2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、有価証券の償還等により資産売却収入が18億2百万円(前年度比1億5千7百万円増加)、借入金収入が6億9千5百万円(このうち6億9千4百万円は大学九段4号館建築資金として私学事業団からの借入金)、学納金等の前受金収入は10億2千4百万円、その他の収入は退職給与引当特定資産等からの繰入収入、貸付金回収収入、前期末未収入金収入等により5億1千8百万円、前年度繰越支払資金を含め収入の部合計額は115億5千9百万円となった。

支出の部では、人件費支出が27億5千4百万円(退職金支出減少、前年度比2億3千8百万円減少)、教育研究経費支出は11億8千1百万円(前年度比2億6百万円増加)、管理経費支出は3億9千7百万円(前年度比3千8百万円増加)、借入金返済および利息支出は3億4千3百万円となった。施設設備関連の支出は大学九段新校舎(4号館)の竣工及び既存校舎の改修整備として14億1千7百万円、図書・備品購入等で2億2千1百万円、資産運用支出は退職給与引当特定資産繰入、有価証券等購入により21億8千円となった。このほか前期末未払金の支出等があり、これらの結果、次年度繰越支払資金は29億9千8百万円(前年度末より3億4千8百万円減少)となった。

#### 3. 貸借対照表について(別表3)

資産の部は、有形固定資産が大学九段新校舎(4号館)の竣工及び既存校舎の改修整備や図書・備品の購入等により16億2千3百万円増加、除却及び減価償却6億4千2百万円等により184億7千6百万円(前年度比9億9千7百万円増加)となった。また、その他の固定資産は、有価証券の償還や他資産への振替等により30億6千9百万円(前年度比6億5千4百万円減少)となり、流動資産は64億9千5百万円(前年度比5億3千3百万円増加)となった。

負債の部は、私学事業団からの新規借入(大学九段4号館建築資金)により借入金が増加したほか、退職給与引当金の増加により固定負債は28億7千1百万円となった。また、未払金、預り金の減少により流動負債は16億6千7百万円となり、負債の部合計額は45億3千8百万円(前年度比3億3千5百万円減少)となった。

基本金の部は、第1号基本金(土地・建物・図書・備品等固定資産の取得)及び第3号基本金(奨学基金)の組入額11億3千9百万円により255億9千3百万円となった。

これらの結果、平成26年度末における貸借対照表は、資産の部合計額280億3千9百万円、負債の部合計45億3千8百万円、基本金の部合計額255億9千3百万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費支出超過額は20億9千2百万円となり、正味財産額は235億1百万円(前年度末より5億4千1百万円増加)となった。

#### 4. 主な財務比率について(別表4)

消費収支関係比率では、学納金をはじめ帰属収入が前年度比増加し、人件費比率(帰属収入に占める人件費の割合)、人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)および借入金等利息比率が前年度比減少となった。一方、教育の質向上を図るための各種事業の実施により教育研究経費比率(帰属収入に占める教育研究経費の割合)、管理経費比率(帰属収入に占める管理経費の割合)、消費収支比率は消費税増税の影響もあり上昇した。帰属収支差額比率は近年低下傾向にあったが学納金、寄付金、補助金の増加及び資産運用収入・売却差額の確保により上昇となった。また、施設改修計画に基づく大学九段新校舎(4号館)の建築及び既存校舎の改修整備などにより基本金組入率は上昇傾向にある。

貸借対照表関連比率では、校舎建築資金の借入(私学事業団)により固定負債構成比率(総資金に占める固定負債の割合)は上昇となったが、固定資産構成比率(総資産に占める固定資産の割合)、固定比率(自己資金に占める固定資産の割合)等が低下し、流動資産構成比率(総資産に占める流動資産の割合)、流動比率(流動負債に占める流動資産の割合)の上昇など固定から流動へのトレンドにあり、良好といえる。

一方、設備投資に伴う基本金組入などにより消費収支差額構成比率(総資金に占める消費収支差額の割合)は低下傾向にある。そのほか、自己資金構成率(総資金に占める自己資金の割合)及び負債比率(自己資金に占める総負債の割合)、基本金比率、内部留保資産率(財政上の余裕度)、運用資産余裕率(支出規模に対する資金の蓄積度)、退職給与引当金預金率等は良好な水準にある。

別表1 消費収支計算書

(単位：百万円)

科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	3,885	3,822	63
手数料	111	117	△ 6
寄付金	147	68	80
補助金	931	849	82
資産運用収入	164	175	△ 11
資産売却差額	188	188	0
事業収入	3	3	0
雑収入	143	313	△ 169
帰属収入合計	5,573	5,533	39
基本金組入額合計	△ 1,139	△ 1,107	△ 33
消費収入の部合計	4,433	4,427	7
<b>消費支出の部</b>			
人件費	2,765	2,919	△ 154
教育研究経費	1,793	1,561	232
管理経費	428	390	39
借入金等利息	30	36	△ 6
資産処分差額	5	24	△ 19
徴収不能引当金繰入額	10	9	1
消費支出の部合計	5,031	4,938	93
当年度消費支出超過額	△ 598	△ 511	△ 87
前年度繰越消費収支差額	△ 1,494	△ 983	△ 511
翌年度繰越消費収支差額	△ 2,092	△ 1,494	△ 598

別表3 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成26年度末	平成25年度末	増 減
<b>固定資産</b>			
有形固定資産	21,544	21,202	343
その他の固定資産	18,476	17,479	997
流動資産	3,069	3,722	△ 654
<b>資産合計</b>	<b>28,039</b>	<b>27,163</b>	<b>876</b>
<b>負債</b>			
固定負債	2,871	2,511	360
流動負債	1,667	1,692	△ 25
<b>負債合計</b>	<b>4,538</b>	<b>4,203</b>	<b>335</b>
基本金	25,593	24,453	1,139
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,092	△ 1,494	△ 598
<b>負債・基本金・消費収支差額合計</b>	<b>28,039</b>	<b>27,163</b>	<b>876</b>

(注) 別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。

別表2 資金収支計算書

(単位：百万円)

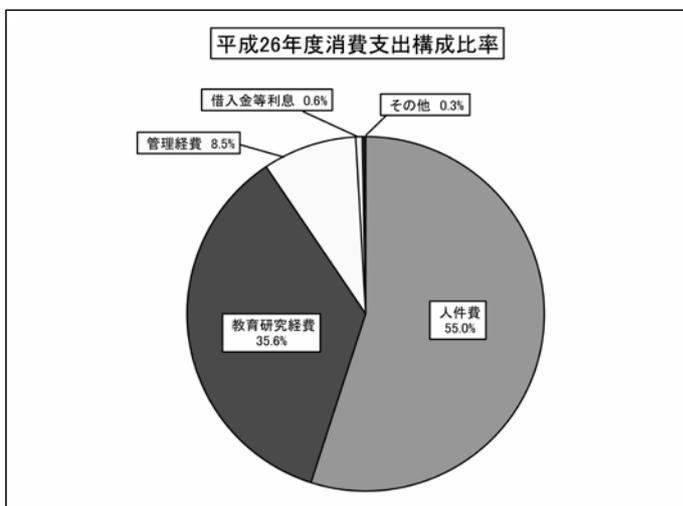
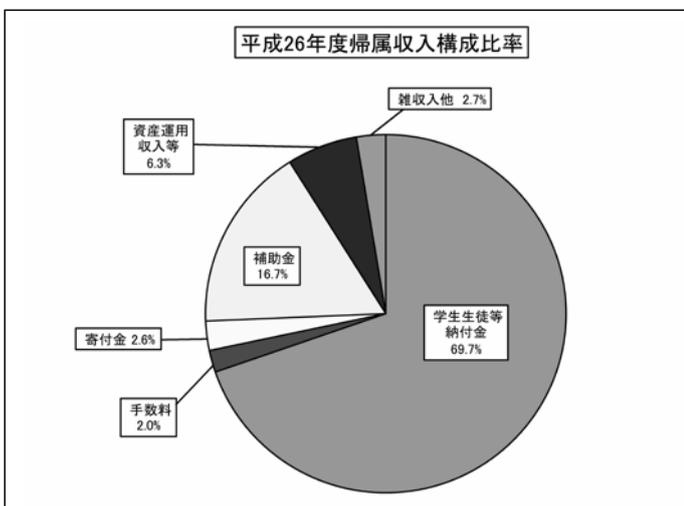
科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	3,885	3,822	63
手数料収入	111	117	△ 6
寄付金収入	143	62	81
補助金収入	931	849	82
資産運用収入	164	175	△ 11
資産売却収入	1,802	1,645	157
事業収入	3	3	0
雑収入	143	313	△ 169
借入金等収入	695	501	194
前受金収入	1,024	1,027	△ 3
その他の収入	518	605	△ 87
資金収入調整勘定	△ 1,207	△ 1,299	92
当年度資金収入合計	8,213	7,819	393
前年度繰越支払資金	3,346	3,737	△ 391
収入の部合計	11,559	11,557	2
<b>支出の部</b>			
人件費支出	2,754	2,992	△ 238
教育研究経費支出	1,181	975	206
管理経費支出	397	359	38
借入金等利息支出	30	36	△ 6
借入金等返済支出	314	813	△ 500
施設関係支出	1,417	624	793
設備関係支出	221	291	△ 70
資産運用支出	2,180	2,154	26
その他の支出	202	189	13
資金支出調整勘定	△ 135	△ 221	87
当年度資金支出合計	8,561	8,211	350
次年度繰越支払資金	2,998	3,346	△ 348
支出の部合計	11,559	11,557	2

別表4 主な財務比率

(単位：%)

比 率	計 算 式	平成26年度	平成25年度	25年度全国平均
人件費比率	人件費 / 帰属収入	49.6	52.8	52.4
人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	71.2	76.4	72.4
教育研究経費比率	教育研究経費 / 帰属収入	32.2	28.2	31.5
管理経費比率	管理経費 / 帰属収入	7.7	7.0	8.8
帰属収支差額比率	(帰属収入 - 消費支出) / 帰属収入	9.7	10.8	5.2
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 帰属収入	69.7	69.1	72.4
固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	76.8	78.1	86.7
固定比率	固定資産 / 自己資金	91.7	92.3	99.2
流動比率	流動資産 / 流動負債	389.5	352.3	245.9

(注) 「全国平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による医歯系を除く504大学法人の平均を示す。



## 平成27年度予算の概要

### 平成27年度の状況

二松学舎創立135周年を機に「長期ビジョン (N'2020 Plan)」を定め、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を平成25年度より推進しており、平成27年度は実施3年目となる。

大学・両附属高校・中学校とも効果的な学生・生徒募集および広報活動を実施するほか、キャンパス整備については、大学九段1号館3階教学フロアの全面改修及び講師室の移設など既存校舎の改修整備を行う。また、附属高校合宿所(柏キャンパス)の改修整備のほか各学校とも校舎の経年劣化により必要となる修繕工事を計画立てて実行する。

収支については、大学の授業料等納付金改定(値上げ)および附属柏高等学校の臨時定員増により学納金収入が増加する見込みである。一方、人件費及び教育研究経費が増加する見込みである。私立学校への経常費補助金の大幅増加は見込めないが、私立大学の特色ある取り組みへの支援や建学の精神や特色を生かした教育改革などの事業に積極的に申請し補助金獲得を図る。

キャンパス整備の進捗に伴い、校舎の維持管理や情報システム機器の運用・保守に係る経費(減価償却を含む)や私学事業団への借入金返済など、長期に亘り多額の支出が続くことが予想される。

平成27年度はアクション・プラン推進3年目となる。N'2020 Plan(アクションプラン)に織り込まれていない投資は極力抑えることとし、特別事業費申請案件については厳しく査定し、経常的な経費についても見直し・削減を強力に実施する。既存事業の見直しを行い、スクラップ・アンド・ビルドにより事業を推進するとともに、不採算事業項目については縮小・廃止を検討し、収支改善を図ることを平成27年度の予算編成方針とした。

### 平成27年度の収支状況

#### 1. 事業活動収支予算書について(別表5)

##### (1) 教育活動収支について

###### 【収入】

- ①収入の柱である学生生徒等納付金は、39億5千1百万円となる見込みである。
- ②手数料は、入学検定料を主として1億9百万円を見込んでいる。
- ③大学及び両附属高等学校および柏中学校の経常費補助金は8億3千2百万円を見込んでいる。
- ④雑収入は、退職金団体からの交付金1億3百万円と併せて1億6千万円を見込んでいる。

###### 【支出】

- ①人件費は、27億2千4百万円となる見込みである。
- ②教育研究経費は、施設設備の維持管理、情報システム関連経費、図書館業務のアウトソーシングほか特別事業費および減価償却額などにより、18億3千8百万円を計上している。
- ③管理経費は、教育研究経費と同様に施設設備の維持管理費と事務システム関連経費および減価償却額などにより、4億3千7百万円を計上している。

これらにより、教育活動による収支差額は1億2百万円となる見込みである。

##### (2) 教育活動外収支について

教育活動外の収入として、資産運用による受取利息・配当金1億6千3百万円を、教育活動外の支出として借入金利息支払額2千9百万円を計上しており、教育活動外収支差額は1億3千5百万円となる見込みである。

##### (3) 特別収支について

有価証券の償還による資産売却差額として1億4千万円を見込んでおり、その他の特別収入と合わせて1億4千9百万円を計上している。

これらにより、基本金組入前当年度収支差額は3億8千5百万円を見込んでいる。当年度の基本金組入額は、施設・設備の整備及び教具・器具・備品の取得などにより7億6千6百万円を計上している。この結果、当年度収支差額は3億8千1百万円の支出超過となる見込みである。

#### 2. 資金収支予算書について(別表6)

収入の部は、学生生徒等納付金収入、資産運用収入、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は68億5千5百万円となり、前年度繰越支払資金29億9千8百万円と合わせて収入額合計は98億5千3百万円となる見込みである。

支出の部は、人件費支出、教育研究経費・管理経費支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等により、当年度支出額は65億5千3百万円となり、次年度繰越支払資金は33億円となる見込みである。

別表5 平成27年度事業活動収支予算書

(単位：百万円)

		科 目	金 額	
教育活動収入	事業活動収入	学生生徒等納付金	3,951	
		手数料	109	
		寄付金	54	
		経常費等補助金	832	
		付随事業収入	3	
		雑収入	160	
		教育活動収入計	5,109	
	事業活動支出	科 目		金 額
		人件費	2,724	
		教育研究経費	1,838	
管理経費		437		
		徴収不能額等	8	
		教育活動支出計	5,007	
教育活動収支差額			102	
教育活動外収支	収入	科 目		金 額
		受取利息・配当金	163	
		その他の教育活動外収入	0	
		教育活動外収入計	163	
	支出	科 目		金 額
		借入金等利息	29	
		その他の教育活動外支出	0	
		教育活動外支出計	29	
	教育活動外収支差額			135
	経常収支差額			236
特別収支	収入	科 目		金 額
		資産売却差額	140	
		その他の特別収入	9	
		特別収入計	149	
	支出	科 目		金 額
		資産処分差額	0	
		その他の特別支出	0	
		特別支出計	0	
特別収支差額			149	
基本金組入前当年度収支差額			385	
基本金組入額合計			△766	
当年度収支差額			△381	
前年度繰越収支差額			△2,092	
翌年度繰越収支差額			△2,473	

別表6 平成27年度資金収支予算書

(単位：百万円)

		科 目	金 額
収入の部			
	学生生徒等納付金収入	3,951	
	手数料収入	109	
	寄付金収入	53	
	補助金収入	841	
	資産売却収入	1,400	
	付随事業収入	3	
	受取利息・配当金収入	163	
	雑収入	160	
	借入金等収入	1	
	前受金収入	956	
	その他の収入	228	
	資金収入調整勘定	△1,009	
	当年度資金収入合計	6,855	
	前年度繰越支払資金	2,998	
	収入の部合計	9,853	
支出の部			
	人件費支出	2,741	
	教育研究経費支出	1,190	
	管理経費支出	407	
	借入金等利息支出	29	
	借入金等返済支出	313	
	施設関係支出	227	
	設備関係支出	94	
	資産運用支出	1,501	
	その他の支出	178	
	資金支出調整勘定	△127	
	当年度資金支出合計	6,553	
	次年度繰越支払資金	3,300	
	支出の部合計	9,853	

(注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

## 二松學舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金について

父母会では、昨年度より公立学校教員採用試験合格者・公務員試験合格者・父母会が指定した資格の取得者を対象とした奨学金を設けました。

申請方法、申請時期等の詳細につきましては、

二松學舎大学ホームページ⇒松苓金(卒業生)、父母会・後援会関係者の方⇒父母会の方へにアクセスしていただき、二松學舎大学父母会奨学金の募集についてをご覧ください。

父母会ホームページ URL <http://www.nishogakusha-u.ac.jp/fubo/>

## 編集後記

五月に平成二十七年二松學舎大学父母会定期総会が開催され、役員体制が整いました。

新しく役員になられた皆さんと共に「二松學舎大学父母会報」を通じて大学や学生の様子、父母会の活動などをお伝えして参りたいと思います。

また、平成二十七年入学式も滞りなく実施され、キャンパスに新しい息吹が注入されました。

一年次生も環境に慣れ、学業に励んでいることと思います。

ちよつと早いのですが、今年の十大ニュースとして、選挙権が二十歳以上から十八歳以上に七十年ぶりに引き下げられ、二四〇万人の新たな有権者(青年)が、来年の参議院選挙から投票に参加することが挙げられます。

一年次生も政治について、よりしっかりとした目を持つことが必要になります。

最後になりましたが、今回の父母会報はいかがだったでしょうか。父母会の活動について、ご意見等ございましたら、父母会事務局までご一報いただけたら幸いです。